

参考資料 2

小山高専の J A B E E プログラム

小山高専のJABEEプログラム

プログラム名： 複合工学系プログラム
General Engineering

受審分野： 工学（融合複合・新領域）関連分野

受審経緯： 2005年度（平成17年度）本審査〈34項目〉

審査結果； A（適合） 18項目

C（懸念） 12項目

W（弱点） 4項目

2007年度（平成19年度）中間審査〈本審査で
判定C, Wの項目〉

審査結果； C（懸念） 5項目

W（弱点） なし

2010年度（平成22年度）認定継続審査

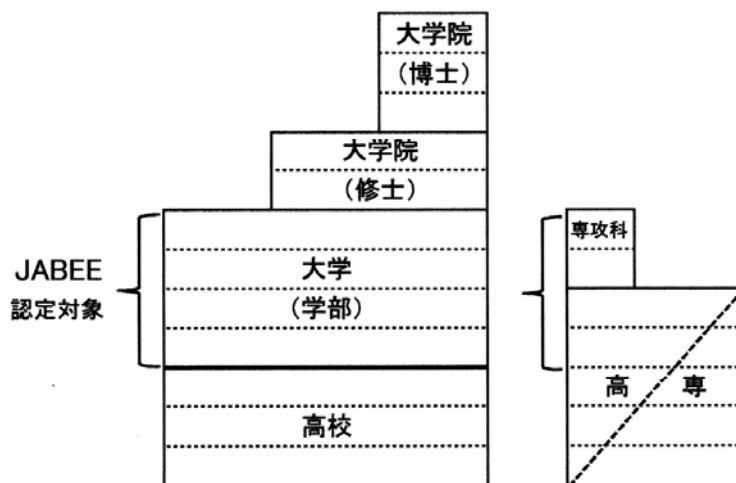


図 教育課程とJABEEプログラム認定対象の関係

JABEEプログラムへの要求事項

- (1)教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。
- (2)教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標とJABEEが求める教育成果を満たしていることを示さなければならない。
- (3)教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。
 - a) 学生や就職先企業など顧客層のニーズを採り入れる方法
 - b) 教育活動を観察して教育成果を測定し分析する方法
 - c) 教育プログラムが教育目標を達成しているか否かを判断する方法
 - d) 効果的な自己点検、教育改善システム（組織と活動）
- (4)入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

JABEE審査項目

- 基準1：学習・教育目標
 - 基準2：学習・教育の量（1600時間以上の総授業時間）
 - 基準3：教育手段（目的・目標を達成するために必要な資質をもった学生を入学させる方法、編入生の既習得単位に対する互換性評価法）
 - 基準4：教育環境（施設・設備、財源、勉学への支援体制）
 - 基準5：学習・教育目標達成度の評価と証明（目標達成度の評価基準とそれに基づく評価、総合的な達成度評価、厳密な成績管理）
 - 基準6：教育改善（自己点検システム、教育手法や教育環境の改善活動）
- 分野別要件（当該分野では履修生が基礎工学、専門工学の知識と能力を有すること、および教員団に実務を教える能力を有する教員を含むこと）

表 機関別認証評価とJABEE審査の違い

教育機関の活動	機関別認証評価	JABEE審査
求める活動	点検(Inspection)	改善(Quiality Improvement)
評価の視点	何をするのか?	いま行っていることは目的とする学習成果の達成に結びつくのか?
教育活動の立場	教育活動そのものが評価対象	教育活動は教育成果を達成するための手段
評価対象	入力(カリキュラム、教員、設備)	教育成果(Outcomes)
Outcomes の役割	定義なし	教育成果は教育活動を改善するための情報源
点検・評価活動の目的	外部の審査基準を満たすための活動	評価を教育プログラムへフィードバックし、質的改善を図るための活動

各基準関連の取り組み概要

基準 1 : 学習・教育目標

- JABEE要求事項と本校の学習・教育目標開設科目との関係
- 複合工学系科目の開設状況

基準 2 : 学習・教育の量 (1600時間以上の総授業時間)

- 学修単位化取り組み推移状況
- 学習保証時間(授業時間)確保の推移状況
- 自己学習化

基準 3 : 教育手段—入学者選抜方法、教育方法、教育組織—

- (4年次編入生、他高専から専攻科入学)学生の受け入れ方法と支援要領、
- 移籍学生(大学3年次編入生)について

基準 4 : 教育環境(施設・設備、財源、勉学への支援体制)

- 学生への各種支援について

基準5：学習・教育目標達成度の評価と証明（目標達成度の評価基準とそれに基づく評価、総合的な達成度評価、厳密な成績理）

○学習・教育目標の達成状況

○JABEE修了生の推移

基準6：教育改善（自己点検システム、教育手法や教育環境の改善活動）

○教育点検； PDCAサイクル

○教育改善推進室主導型アクション

○外部評価の活用

教員

○博士号取得者数の推移

○教育研修会等への参加状況

○高専特有の担任制

基準1 関連

JABEE認定に要求される知識・能力と本プログラムの学習・教育目標との関係

； 詳細は概要書の表

； JABEE認定に要求される知識・能力(a)～(h)と本プログラムの学習・教育目標(A)～(E)、具体的な目標(A-1)～(E-3)の15項目との関係を示している。

若干手薄な分野が浮き彫りになるが、本プログラムの学習・教育目標にはJABEE認定要素がすべて盛り込まれている。

JABEE認定に要求される知識・能力

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）
- (c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを活用できる能力
- (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力（※）
- (e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
- (g) 自主的、継続的に学習できる能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

(d)について、該当する分野は工学（融合・複合、新領域）分野で、この分野では次の知識・能力が要求される。

- (1) 基礎工学の知識・能力
基礎工学の内容は、①設計・システム系科目群、②情報・論理系科目群、③材料・バイオ系科目群、④力学系科目群、⑤社会技術系科目群の5群からなり、各群から少なくとも1科目、合計最低6科目についての知識と能力
- (2) 専門工学の知識・能力
 - a) 専門工学（工学（融合複合・新領域）における専門工学の内容は申請高等教育機関が規定するものとする）の知識と能力
 - b) いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験を計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、かつ説明・説得する能力
 - c) 工学の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決する能力
 - d) （工学）技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する基礎的な能力

小山高専JABEEプログラムの学習・教育目標

- (A) 技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。
 - (A-1) 科学や工学の基本的原理や法則の基礎知識を身につけること。
 - (A-2) 基礎知識を専門工学分野の問題に応用して解くことができること。
 - (A-3) 専門分野の課題や問題点を考えとともに、問題解決の目的と方法を明らかにして自主的に研究を進めることができること。
- (B) 技術者としての素養を身につける。
 - (B-1) 実験や観察、調査、製作を自ら行い、データ採取や解析、考察を通して結論を導くことができること。
 - (B-2) 数学の知識と、数学と工学をつなぐ基礎的知識を身につけること。
 - (B-3) 技術的課題に広く関心をもち、課題や問題を解決するための全体のプロセスを考察して具現化（デザイン）することができること。
- (C) 技術と自然や社会とのかかわりを理解する。
 - (C-1) 工業技術が自然や社会環境に与える影響を認識でき、資源やエネルギー、環境を考慮した技術を指向できるようになること。
 - (C-2) 社会・経済と技術の共生の可能性を把握、理解することができること。
 - (C-3) 工業技術者としての社会的責任や倫理観を自覚できること。

- (D) コミュニケーション能力を身につける。
 - (D-1) 言語の知識を習得すると同時に、語学力や会話力を身につけること。
 - (D-2) 研究調査や実験の計画を立て、実施し、結果をまとめ、それを口頭で発表して質疑応答ができること。
 - (D-3) 実社会の中で体験したことについて、自分の考えをまとめて発表、報告することができること。
- (E) 国際的な感覚を身につける。
 - (E-1) 外国の文化や価値観について知り、国際性を身につけること。
 - (E-2) IT社会やネットワーク社会の国際的な構造や問題点を理解することができること。
 - (E-3) 国際的な情報化社会の中で有用な情報を入手して、問題解決のための分析や考察に活用することができること。

学修単位科目の推移

(本科4、5年、専攻科1、2年合計)

		平成17年度(導入前) 学修単位の総単位数	平成21年度 学修単位の総単位数
電子システム工学	機械工学系	71 (本科:0、専攻科:71)	75 (本科:11、専攻科:54)
	電気情報工学系	68 (本科:0、専攻科:68)	124 (本科:52、専攻科:72)
	電子制御工学系	62 (本科:0、専攻科:62)	100 (本科:28、専攻科:72)
物質工学		87 (本科:0、専攻科:87)	134 (本科:51、専攻科:83)
建築学		72 (本科:0、専攻科:72)	114 (本科:32、専攻科:82)

学習保証時間から授業時間へ

JABEE旧基準：プログラム修了時までには1800時間以上の学習保証時間



JABEE新基準：プログラム修了時までには1600時間以上の授業時間

- ・ **学習保証時間**； 教員との対面時間以外も含まれる、**授業・学習時間**（実務研修等も含む）
- ・ **授業時間**； 純粋に教員との対面学習時間（実務研修等は含まれない）

(2) 学習保証時間、授業時間の推移

	平成16年度(学習保証時間) JABEE基準:1800時間以上	平成21年度(授業時間) JABEE基準:1600時間以上
機械系	2935	3015
電気情報系	3090	3300
電子制御系	2965	3000
物質系	3802.5	3362.5
建築系	2940	3075

授業時間として計算しても
十分JABEE基準を満たしている

(3) 自己学習化への努力

学習単位の自己学習時間確保への取り組み

講義A：1講義（1h40m）当たり、3h20m必要
講義B・演習：1講義（1h40m）当たり、50m必要

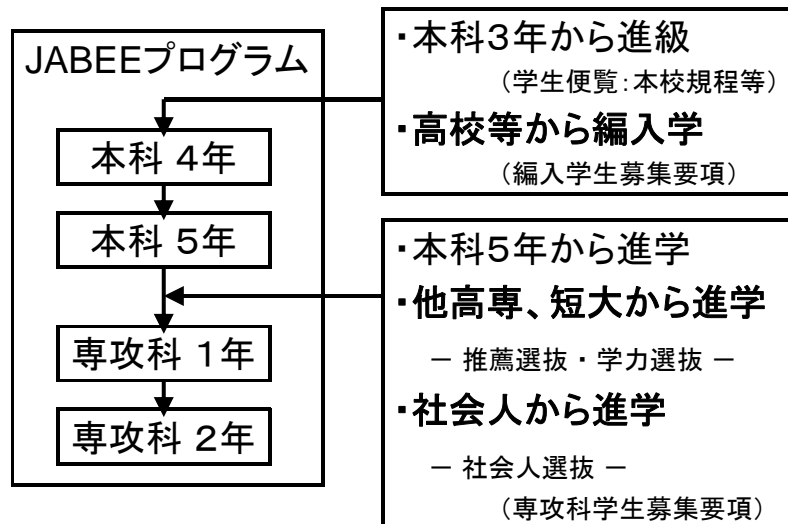
各科目ともレポート課題を課して、
自己学習時間確保に務めている。

・自己学習時間に関する学生アンケート結果の例

平成21年度開講				自己学習時間の内訳の平均				
学年	科目名	単位種別	講義1回に対する平均自己学習時間の平均	調べる、復習	計算、解く	見直し	清書	その他
5	科目A	講義A	2:48	0:53	1:57	0:37	0:39	0:00
5	科目B	講義A	2:56	1:28	0:55	0:30	0:42	0:20
5	科目C	講義B演習	1:20	0:20	0:56	0:00	0:20	0:00

科目によっては、ほぼ自己学習時間が満たされている。

基準3 関連 学生の受け入れ方法と支援



高校等から4年次編入学の方法

高校の英語、数学・普通高校の理科（物理、化学、生物）
工業高校・農業高校の専門に相当する試験を実施。その
結果と面接、調査書等を総合的に判定して合格者決定

4年次編入学生の支援

本校3学年までの学習で、高校では未履修の教科・
科目の事前学習資料等を送付し、事前学習を指導。
(10月)

編入学(4月)後は学生からの質問に対応し、必要
に応じて補習等実施。

他高専から専攻科への入学方法

高等学校の英語、数学、理科（物理、化学、生物）、工業高校と農業高校の専門の学習内容に相当する試験を実施し、その結果と面接、調査書、健康診断を総合的に判定して合格者を決定

他高専からの専攻科入学生への支援

入学後、プログラム科目との照合や検査結果から判断し、学力不足科目は本科4・5年科目の受講を認める。

移籍学生（大学3年次編入生）

本科5年生の8～9割がプログラム前期課程を終えた時点で、他大学3年生への編入、または企業へ就職する。
特段の手続きはなく、本科卒業要件を満たしていればよい。

特に他大学3年への編入に関しては、編入先大学の規程に従い、本校本科4、5年生時に取得した単位を編入先の大学単位へ読み替える。

この際、シラバスや単位取得証明等を参考に手続きが行われ、教務係において学生個々に対して個別対応している。

基準 4 関連

学生への各種支援について

プログラム履修支援： JABEEプログラムの達成度確認表（※）による学年終了時の履修確認、次年度の履修計画立案補助

※JABEEプログラムの達成度確認表

詳細は概要書に添付されているが、JABEEで設定している分野（人文科学・社会科学等，数学・自然科学・情報理論，基礎工学，専門工学(a)，専門工学(b)）ごとの最低限の授業時間と、本プログラムで設定している学習・教育目標ごとの達成基準をクリアできるかが判断できるデータシート

クラス担任中心による就職指導および編入学指導

就職および進学活動に関して(基本的に個々で探し、推薦書等のみ担当教員が行います。)

進学

- ①進学したい大学・学部・学科の候補を考え、インターネットなどで情報検索する。
- ②ホームページ上の入試要項などから、直接から編入学が可能か調べる。(1月頃までに行うこと)
(分からない場合は、個人で大学事務局に問い合わせ等行ってください)
- ③校内のパソコンから、<http://172.16.8.165/> で下記のように進学情報も検索できます。
過去問なども学生服で保管している場合があるので、問い合わせしてみてください。
- ④過去問題を入手し勉強を始める。(入手方法は、大学のHPなどに記載されています)(遅くても、1月頃には勉強開始する)
- ⑤4~6月頃、受験願書を取り寄せて受験手続を進める。
- ⑥推薦書等が必要な場合は、担任に相談する。

一般受験の場合は、いつでも受験可能です。
推薦受験の場合は、1大学のみ受験であり、合格したら必ず入学しないといけません。

長岡・豊橋技大および専攻科の推薦希望締切は、4月20日頃です。

就職

- ①就職したい会社の候補を考え、インターネットなどで情報検索する。
- ②校内のパソコンから、<http://172.16.8.165/> で下記のように就職情報も検索できます。
- ③学校に求人が来ている場合は、求人票を確認し、受験意志があれば担任に相談する。
- ④必要書類等に記入し、入社試験手続を進める。

インターネットなどによる自由応募の場合は、いつでも受験可能です。
学校の求人票からの受験の場合は、1会社のみ受験であり、内定したら必ず入社しないといけません。

就職活動は、1~2月頃から始まる予定です。



担任による就職活動支援の例

就職活動や面接について

・面接前に行うこと

- 1) 自分の性格や適性、やりたいことなどをきちんと整理すること。
(自分が将来どうなりたいか、どんな仕事がしたいかなど)
- 2) 面接の質問例と解答例を作り、頭の中で整理しておくこと。
- 3) 適性検査や筆記試験のある会社もあるので、前例を調べて勉強すること。

・就職活動(面接)のポイント

- 1) エントリー、資料請求や電話での応対から選考は始まっている。
- 2) 面接時の服装は、きちんとする(髪型等はきちんとし、アクセサリー類も避ける)
- 3) 面接時に、自分の意思(やりたいことなど)はある程度主張する。
(職種・配属先などは面接前(書類審査の段階)に決まっていることもあるので、自分の意思を主張しすぎてマッチングできないと不合格になってしまう。)
- 4) 面接前に考えた解答どおりに答えられなくても絶対にあわてない。
(人事関係者も、受験者のほとんどがあがっているためほとんど気にしていない)
- 5) 面接時に最も重要になるのは、話の内容ではなく、第一印象、話し方、礼儀作法等である。

・その他

面接後、不合格になった場合は、自信をなくして落ち込まず、「自分の人間性を理解できない会社」、
或いは「仮に就職しても自分を活かしきれない会社」と考え、落ちて良かったとプラスに考え、
次の行動に移ること。

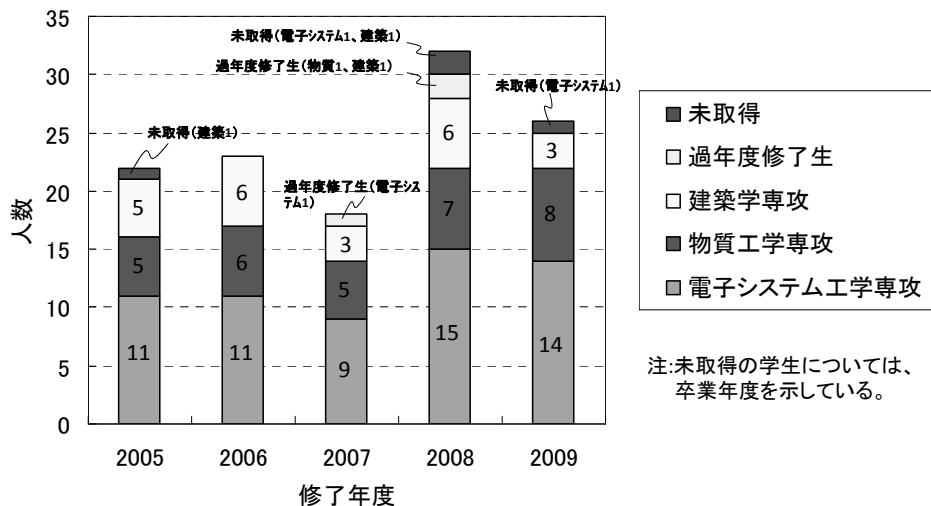
資格取得のための支援例

回	内容	実施日	時間	担当者	場所	対象学年
1	資格取得学習支援 TOEICコース ポイント解説	1/8 (火)	17:00から 19:00まで	今成		4年 専攻科1年
2	資格取得学習支援 TOEICコース 模擬試験	1/1 (金)	17:00から 19:00まで	今成		〃
3	資格取得学習支援 基本情報処理技術者試験コース 演習問題(1)(2)	1/2 (火)	17:00から 19:00まで	今成		〃
4	資格取得学習支援 基本情報処理技術者試験コース 演習問題(3)	1/2 (金)	17:00から 19:00まで	今成		〃
5	資格取得学習支援 基本情報処理技術者試験コース 基礎プログラミング	1/2 (月)	17:00から 19:00まで	今成		〃

(出典：平成21年小山高専自己点検評価報告書)

基準 5 関連

JABEE修了生の推移



未取得の学生は、全て就職

小山高専の学習・教育目標ごとの達成基準

学習・教育目標	達成を裏付ける具体的目標
(A) 技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。	目標Aを掲げている開設科目の60%以上の科目を履修かつ合格し、その成績のGP(Grade Point, S評価=4、A評価=3、B評価=2、C評価=1; C評価以上が合格)の平均が2以上であること。
(B) 技術者としての素養を身につける。	卒業研究、特別研究、実務研修の採点表評価の各小項目がそれぞれ60点以上であり、かつ全体として合格していること。
(C) 技術と自然や社会とのかかわりを理解する。	目標Cを掲げている開設科目の60%以上の科目を履修かつ合格し、その成績のGPの平均が2以上であること。
(D) コミュニケーション能力を身につける。	特別研究等の成果について少なくとも1回以上、学会等の外部発表を行うこと。
(E) 国際的な感覚を身につける。	TOEIC400以上もしくは、つぎのいずれかのテストでTOEIC400と同等以上のスコアを得ること。 1) 本科5年 英語演習Ⅱでの期末試験TOEIC IPテスト。 2) 専攻科 応用英語Ⅰでの「アルクネットワークシステム2」の模擬試験。

学習・教育目標の達成状況：H22.3月修了生への参考導入結果

学科	学生	A				B			C				D	E
		開設	取得	履修率	GP平均	卒研	特研	実務研修	開設	取得	履修率	GP平均		
M	1	36	23	63.9	3.0	83	83	85	8	7	87.5	2.8	○	310
	2	36	23	63.9	3.0	81	81	70	8	7	87.5	2.8	○	295
	3	36	24	66.7	1.8	72	85	85	8	8	100.0	2.0	○	395
	4	36	24	66.7	2.5	77	72	80	8	6	75.0	2.5	○	430
	5	36	22	61.1	2.7	78	77	90	8	8	100.0	2.8	○	330
	6	36	23	63.9	2.6	85	78	85	8	6	75.0	2.6	○	425
E	1	46	36	78.3	2.2	74	64	84	8	8	100.0	2.0	○	485
	2	45	38	84.4	2.4	80	75	88	8	8	100.0	1.7	○	635
	3	46	41	89.1	3.1	65	80	84	7	5	71.4	2.7	○	335
	4	46	39	84.8	2.5	83	66	89	7	7	100.0	2.3	○	455
	5	46	39	84.8	3.3	82	77	91	8	8	100.0	3.3	○	380
D	1	43	40	93.0	2.5	94	94	85	5	5	100.0	2.6	○	320
	2	43	39	90.7	3.1	93	94	86	5	5	100.0	2.4	○	360
	3	43	36	83.7	2.7	85	85	88	5	5	100.0	2.6	○	385
	4	43	40	93.0	2.9	80	80	87	5	5	100.0	2.6	○	285
C	1	47	37	78.7	3.2	84	95	94	5	5	100.0	2.0	○	315
	2	47	36	76.6	2.6	79	91	94	5	5	100.0	2.0	×	450
	3	47	37	78.7	2.5	74	76	93	5	5	100.0	3.0	×	390
	4	47	37	78.7	3.1	85	80	94	5	5	100.0	2.4	○	397
	5	47	37	78.7	2.9	86	92	94	5	5	100.0	3.2	○	410
	6	46	34	73.9	3.7	77	97	94	5	4	80.0	2.5	○	495
	7	47	36	76.6	3.6	94	95	93	5	4	80.0	2.5	○	550
	8	47	36	76.6	3.6	82	93	93	5	5	100.0	3.2	○	420
A	1	25	17	68.0	2.5	80	78	84	18	13	72.2	2.5	○	450
	2	25	17	68.0	2.3	79	83	84	18	14	77.8	2.4	○	未受験
	3	25	18	72.0	2.0	78	82	75	18	13	72.2	2.3	○	未受験

※灰色部：未達成

達成状況を踏まえた今後の課題

- ・目標A, Cについて

一部の学生が目標を達成出来ていない。

A：主に成績不良が要因。

C：主要開設科目（自己点検書・表4の◎科目）数が少ないことが要因の一つ。

本調査では表4◎科目のみを対象。

本校では基礎学力を重視。科目の区分は担当教員に一任。

→教員がAに重点を置くことが多く、Cは副主要科目（表4○）が多い。

課題：H23修了生については、科目における◎、○の扱いを再検討

- ・目標B, Dについて

全員が合格している。

特に問題はないので、今後も現状を維持する。

・目標Eについて

TOEICで達成基準に至らなかった学生が数名存在

- 要因：
- ・ 学生自身の金銭的負担が大きいこと
 - ・ H22. 3は参考導入→学生意識が低いこと
 - ・ 意識低下の結果：TOEICスコアシートの紛失
 - ・ 金銭的負担のない学内実施が可能なTOEIC IP等の認可試験の周知不足

対策：以下，2項目を学生への周知徹底

- ①目標E達成のための金銭的負担の軽減および試験日程に依存しない達成手段として学内試験の受験義務化
- ②対外的な資格として認知されるTOEIC本試験を受験した際のスコアシートの保管

学習・教育目標の達成基準を明確化
専攻科の学力水準を保つために一定の効果があることが伺える

基準6 関連

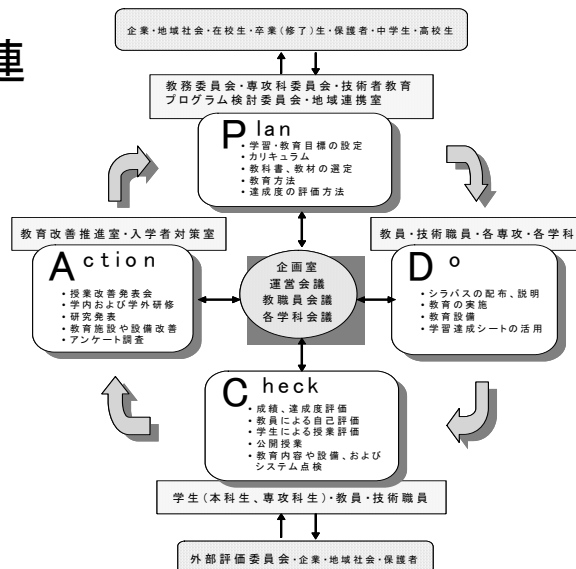


図 プログラムのPDCAサイクルの仕組み

表 教育改善推進室の活動状況

年月日	曜日	事項	備考
H17.4.1	金	教育改善室長 胸組虎胤、室員:土田、白石、井上が任命された。	
H17.4.25	月	<全教員にメール>FDに関する小冊子(『FDステップアップ2005』)についての意見を求めた。	
H17.5.9	水	教務委員会において、FDステップアップ2005が示されて、FDの年間計画が承認された。	
H17.7.6	水	全教員に7.13開催の教育改善研修会の案内がメールで配信された。	
H17.7.13	水	H17年度第1回教育改善研修会開催、講師:機械工学科井田晋、テーマ:長きを以てて 尊しとせず	参加者 29名
H17.11.11	金	<全教員にメール>平成17年度公開授業(11月18日~12月1日)の実施要綱 を送信。	
H17.11.18	金	平成17年度公開授業を実施した。平成16年度授業評価アンケートの上位60位ま での高得点授業をもとに各学科が選んだ授業を対象とした。	
H18.1.30	月	専攻科長に授業アンケート用専攻科科目一覧を送り、誤りのないことの確認を要請し た。	
H18.2.3	金	<室員にメール>平成17年度後期、通年分の学生による授業アンケート実施(2月 6日~2月10日)についての通知を行なった。	
H18.2.6	月	平成17年度後期、通年分の学生による授業アンケート実施	2月10 日まで

H18.4.3	月	平成18年度 教育改善推進室長 胸組虎胤、室員:白石、田中(昭)、渡邊	
H18.9.11	月	平成18年度前期授業評価アンケート実施	
H18.11.29	水	平成18年度教育改善研修会を開催。テーマ:学修単位についての各学科の実施状況。 機械工学科(高島)、電気情報工学科(小林(幸)、北野)、電子制御工学科(笠 原)、物質工学科(瀧美、田中(孝))、建築学科(瀧澤)	参加者 32名
H18.12.26	火	<教務委員にメール連絡>平成18年度後期、通年科目授業評価アンケートの実施計 画、対象授業科目の確認を各科教務委員に要請。	
H19.1.26	金	平成18年度授業評価アンケートの実施について、要綱、担当表を掲示、連絡。ホー ムルームにも実施案内を掲示。	
H19.1.28	月	平成17年度分授業評価アンケート報告書の冊子20冊が到着。 各科教務委員に配布。	
H19.1.29	月	平成18年度授業評価アンケートを実施	2月8 日まで

外部評価の活用

教育改善の評価要領としては、学内でのPDCAサイクルにおける点検（Check）のほかに、学外の有識者による外部評価委員会を設けており、適宜、同委員会から評価していただいている。

本プログラムに関しては、これまで2005年と2007年に評価していただいた。

教員： 博士号取得者数の推移

	今回審査 (H22年度)	前回審査時 (H17年度)
全教員	58名／79名 73.4 %	51名／83名 61.4 %
専門学科 教員	48名／57名 84.2 %	42名／59名 71.1 %

教員： 主な教育活動件数

(FDアクションレポートの集計)

年度	H21	H20	H19
教育関係研修会への参加、発表、企画	67	77	39
教育関係学会への参加、発表、企画	40	40	27
教育関係の論文発表	25	26	17
教育関係書籍の執筆、教具・教材作成	28	17	26
教育関係の受賞、教育関係研究費受領	16	13	8
指導した学生の受賞	19	20	18
その他、教員としての資質向上につながる活動	102	88	60

教員： 学級担任制の役割

(教務関係資料の担任業務より抜粋)

高専ならではの担任制によるきめ細かな個別対応

- 学業成績に関する授業担当教員との連絡、
学業に関する学生への助言
- 学生の出席状況等、学校生活全般に関する助言
- 校則等に定められた諸届・願等提出に関する助言
- 学生の個性観察とその記録
- 必要に応じた、家庭との連絡・連携
- 就職・進学その他の学生の進路指導、連絡調整